

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・知」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己を抑制し、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様な社会の中で困難な状況下であっても、不撓不屈の精神を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実(駐輪場の整備など)、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・知」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・本校の4つの生活信条「奉・人・物・礼」を実践する学校生活、教育活動を推進する。 ・進度より深度を基本に授業を展開し、進学、就職の実績を高める。 ・全国レベルの部活動や文科系部活動の更なる活性化を図る。	A	進路コース別にクラスを編成し、多様な教育活動を展開した。国公立大学への受験希望者の増加に対応し、コース毎の募集定員を平成29年度に続き平成30年度も一部変更することとした。就職内定100%を今年度も達成した。崇城大学の協力の下、高大連携の取り組みを継続している。
	開かれた学校づくり	①学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ②保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや学校通信「文徳点描」の更なる充実を進める。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を高める。	A	月刊紙「文徳点描」やホームページによる迅速且つ適切な情報発信が出来た。特にホームページは新たなシステムに刷新し、機能性が増したことで、アクセス数が増加した。PTA活動・同窓会活動ともに活発であり、学校行事への積極的な協力を得ている。
	教育環境の整備	①教育環境整備計画を推進する。 ②適宜施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・新校舎及び周辺施設を有効に活用する。 ・環境美化のためゴミの軽減に取り組む。 ・教室内の掲示は適切に行う。	A	4号館昇降口から体育館へ屋根のある渡り通路を整備。体育館敷地への入り口(旧正門坂)に減速ランプを設置し、通行の安全を高めた。ゴミ箱の設置を限定した取り組みが定着し、ゴミ処理の流れが明確になった。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・各コースの特色を出したシラバスを作成し、全ての生徒の学力向上を目指した授業を展開する。 ・先進校視察、各種研修会等の参加、研究授業、公開授業などによる意識向上を図る。	B	公開授業を実施することにより、担当者が日頃から緊張感を持って授業に臨み、質の高い授業展開への意識が高まった。各教科に向けて、外部研修会などの情報伝達に力を注ぎたい。また、研究授業の実施数を増やすため時間を確保することも今後の課題である。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・担任は科目担当教師の連絡を密にし、クラスの学習状況を把握する。 ・担任は「学習と生活の記録」を活用するなど生徒個人の対応を図る。	B	各担任によって細かな面談が実施され、家庭学習時間の確保に成功した。主要教科では、平日課題、長期休暇課題等を提出させることで、家庭学習の定着を図ることができた。今後も学習状況の把握に努める。
	読書指導	⑤本に親しむ環境、多面的に知を求める姿を育成する。 ⑥読書週間を周知徹底し、読書習慣の定着をはかる。	・図書館教育、読書指導の充実を図る。 ・定期考査後に読書週間を設けている。今年度は周知徹底させ、読書に向かう姿勢を身に付けさせたい。	B	図書室の利用を活発にすべく、『図書室だより』発信し、新着本を案内するなど読書の奨励を促し、利用者増に結びついた。毎年発行する『金峰』に読書に関するアンケート調査の結果を掲載し、生徒の意識高揚を図った。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	①命の大切さの教育を行う ②基本的な生活習慣の確率 ③生活信条の実践 ④掃除の徹底 ⑤服装・容儀を正す ⑥遵法精神の涵養 ⑦情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ⑧薬物乱用防止の啓発と運動の推進	・命を大切にすることを基本的な生活が送れるように生活習慣を身につけさせる。 ・新入生研修や各学年集会を通じて人として生きる教育を行う。 ・教育環境づくりに力を入れる。 ・拭き掃除の徹底と整理整頓の指導。 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進および携帯スマホの正しい利用法を外部講師等に依頼し、正しい知識を身に付けさせる。	B	互いに人格を尊重し合い、イジメのない学校づくりを目指しているが、数件友人間のトラブルが確認できている。SNSの普及で情報ネットワークが生徒の身近なものになり、問題事案が発生しているようだ。頭髪・服装指導では、集会指導を行っているが、日常指導に不十分さがあつた。校内美化に雑巾がけを取り入れた点は評価できる。常に自らが生活環境を綺麗に保つ心を育てたい。
進路指導	進路目標設定 進路情報提供	①進路に関する指導・支援を強める。 ②進路目標設定指導の充実を図る。 ③進路ガイダンス機能の充実を図る。 ④就職希望者の全員合格を継続する。 ⑤国公立大学への合格者を増やす。	・学年と連携し、生徒の進路意識を高めるために、進路講演会や進路情報の提供を行う。 ・先生や学校の質の向上を図るために、他校視察や外部の講演会へ参加する。 ・LHRや総合的な学習の時間を活用し、進路学習を推進する。 ・崇城大学での体験講座や他大学見学、インターンシップへの参加等、進路選択の機会を充実する。	B	各学年の状況に合わせた講演会やガイダンスを実施し、感想文など自分の意見をまとめることで、進路選択を考える機会を持つことが出来た。外部講師を招き職員研修を行うことで、職員間の情報の共有が図れた。学力向上を意図する授業や課外学習等、職員・生徒ともに不断の努力が見られた。特に、教務部と協力して、生徒の基礎学力の定着へ向けた取り組みが行えた点は良かった。更なる学力向上に向けた取り組みの充実が必要。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	①生徒一人ひとりが学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。	・生徒会の役割、各委員会の運営等を整理し、生徒が主体的に活動しやすいように見直しをする。 ・文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ・HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。	B	学校行事・生徒会行事への生徒会役員の積極的な取り組みがなされた。委員会活動については日常的に定期活動を実施している一部の委員会以外は行事前後に不定期に実施されており、改善が必要である。それでも、昨年と比較すると徐々ににはあるが定期活動を実施しようとする気運は高まっている。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
総務部		円滑な学校行事の実施	①諸学校行事の円滑な企画・運営を図る。	・前年度の評価、反省を生かした企画。 ・ねらいや留意点の徹底 ・行事後の評価、反省。	B	前年度の反省を生かした企画、運営で、円滑な実施ができた。ねらいや留意点について常勤に限らず全ての職員に徹底できなかったことが改善点である。
		人権教育の推進	②人権教育の充実を図る。	・校内研修の充実。 ・校外研修への積極的参加。 ・LHRにおける指導の充実。	A	研修、集会、人権メッセージ募集等で人権意識高揚の取り組みを行った。感想文提出のみならず、各クラスで討論の場を設けるとさらに効果的である。
		P T A 等学校関係機関との連携	③P T A 活動の充実を図る。	・学校との連携・調整。 ・教育活動への支援・協力体制の充実。 ・外部関係団体との連携。	A	保護者の学校行事への支援、協力体制は充実しており、関係諸団体との連携、情報交換も積極的であった。本校の保護者会である文徳会は、素晴らしい。
		防災意識の高揚	④緊急事態に対し身の安全を図る。	・学校環境、立地条件を踏まえた対策。	B	本年度は例年どおり、職員及び全校生徒による避難訓練を実施した。熊本地震の体験もあり、ひとり一人の意識も高く、これまで以上の訓練が実施できた。
		記録・資料の保管	⑤学校関係記録・保管の整備を図る。	・60周年記念事業等を踏まえた資料の収集・保管。	B	各部との連携、協力の下、記念行事への取り組みを検討したい。地域や退職された職員からの情報収集にもあたりたい。
各部及び理工科	生徒指導部	学校生活の充実および社会性の涵養	①生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	・互いに人格を認め合う生徒集団をめざす。 ・欠席、遅刻早退がなく、健康な体力と精神を育てる。 ・挨拶が飛び交う明るい学校を目指す。	B	部活動生を中心に声を出した挨拶が校内でよく実施されている。多くの生徒が学校を休むことなく生き生きと学校生活を送っているが、一部休みがちの生徒もおり、担任と連携して日頃から注視している。互いを認め合い、協調し合い、共に成長する人間関係を構築できるよう今後も指導を継続する。
			②生命を尊重し、安全で健康な心身の確立を図る。	・命を尊重する集団をめざす。 ・イジメのない健全な学校環境をつくる。 ・交通安全指導を徹底し、生徒の命を守る指導を行う。	B	カウンセリング部と連携し、生徒の悩みやトラブルを逸早く発見できる組織体制を整えた。各クラスの健康観察簿を通して保健部と連携しクラスの状況を把握した。ルールの遵守、マナーの向上指導に努めた。今後も、公私の区別を明確にできる生徒の育成に取り組む。
			③自主性を養い、勤労意欲に満ちた生徒の育成を図る。	・人生目標を計画設計させる。 ・社会に貢献できる喜びを体感させる。 ・学校行事や校内活動に積極的に参加させる。 ・ボランティア精神の育成を図る	B	多くの生徒が進路に対し目的意識をもって学校生活を送っている。学年集会、LHR、講演会等を通じて自己を見つめる機会を多く設定した。指導計画は各学年に見合った計画がなされている。しかし学習や生活面に積極性が欠ける生徒が一部が見うけられた。
			④特別教育活動の推進を図る。	・積極的な部活動への参加を推進する。 ・地域と連携したボランティア活動を計画する。 ・生徒会活動、委員会活動を通して愛校心、地域愛、所属意識を育てる。	B	部活動の人間教育は、目的意識や集団活動を行う上で大きな成果を上げている。文化系部活動を充実させることが今後の課題である。生徒会役員の生徒に、本校を良くしていこうとする熱意を感じた。今後は活動時間などを工夫配慮して活動しやすい環境を提供したい。地域との連携した活動を企画したい。
			⑤学校の環境美化を推進し、奉仕精神の育成を図る。	・全職員による清掃指導の強化を図る。 ・教室・部室などの環境整備や美化意識の向上を図る。	B	掃除監督に全職員を配置し、今年も毎日清掃指導を実施した。今後は、生徒会環境美化委員会の通常活動の充実を促し、生徒個々の環境美化への意識向上を図りたい。
保健部		健康教育の推進(衛生指導)	①自己を知り、体と心を鍛え健康で衛生的な生活の推進を図る。	・校医検診を始めとする各計測検査結果の適切な指導処置を図る。 ・保健衛生の啓発とその定着を図る。	B	定期健康診断結果及び受診勧告書を全生徒に配付し、要受診者の16.1%から報告を得た。保健指導や保健だより等で保健衛生の啓発を行っているが、今後はその定着を図りたい。
		健康教育の推進(安全指導)	②生命尊重を基盤とした、健康で安全な行動・実践力の養成を図る。	・学校内外での活動(体育行事・学校行事)での適切な準備・指導を行う。 ・安全・衛生的な環境整備の確立や安全点検の実施を行う。 ・心身の健康に問題を有する生徒への対応の充実を図る。	A	全クラスで毎朝健康観察を実施。その記録を残し、感染症対策や事前指導に生かして準備。地震後の安全点検・修復により安全・衛生的な環境が確保できたが、今後も継続的な点検整備が必要である。様々な課題を持った生徒や保護者へは、SCやSSWと協力し細やかな対応ができていた。今後はより早期からの対応を目指したい。
図書部		読書習慣の定着	①読書意欲を高める図書館教育を推進する。	・生徒の提出するリクエストカードの有効利用。 ・読書週間等の企画や図書室だより等での読書推進活動を強化する。	B	読書に関するアンケートでは、今年も生徒の7割以上が図書室に行った事があると答えている。図書室だよりや掲示板への掲示で、新刊および人気のある本を紹介し、読書の意欲を高めている。
			②蔵書の充実を図る	・教科関係資料や各種文献、蔵書、書庫等の整理とデータ化を進める。	B	各教科に案内し、関係図書を購入している。(例 英語科:「FORT Tadoku Pack/30」、理工科:「ITパスポート試験対策」)などを購入した。例年のように今年も『金峰』(第57号)を発刊し、生徒の読書感想文などを掲載した。
		図書館利用の促進	③受験直前の生徒に対して自学自習の場所を提供する。			

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	教務部	学力向上への意欲を育てる	①学校行事が行われる中、授業時数の確保を図る。	・短縮授業、振替授業等で自習時間の減少を図る。	B	各行事における特別時間割によって、授業時間の確保ができた。コースの特徴を生かすため、1年理工科特別進学コースの教育課程の変更を行った。
		分かる授業への取組	②生徒の学習意欲を喚起するよう、一層の授業改善と評価の充実を図る。	・考査等への取組を深め、学習意欲向上を進める。 ・教科主任会や関係部担当者会等を設け、生徒の学力向上対策を進める。 ・研究授業等を実践し、指導方法の工夫・改善を図る。	B	授業の導入や授業展開への工夫で、学習意欲の湧かない生徒に対して、発問する機会が増えた。習熟度が低い生徒については、英語・数学を中心に個別の指導が行われた。毎日取り組むことで理解度が上がった。教材等を工夫する必要がある。
		基礎学力の定着	③基礎基本の着実な定着を図ると共に、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成する。	・3年間を見通した授業計画及び授業内容の精選。 ・自宅での学習時間調査等を実施し、生徒個々への適切な指導を進める。	B	ガイダンスや講演会などによる進路学習から学習意欲の向上を促した。本校はコースが細分化されており、それぞれに充実感を与えられるように各学年で検討や対策がよく図られた。
		教務規定の周知徹底	④教務関係書類等を見直し、効率的な事務処理を推進する。	・諸処理が正確、迅速、適切なものとなる工夫・改善を図る。 ・教務規定や事務処理等について全職員に周知・徹底を図る。	B	各種伺いに関する書類の処理については適切に処理ができた。教務規定の周知徹底にはやや至らなかった。職員一人一人の意識改革とともに各部署間の連携をとり、周知徹底を目指す。
	進路指導部	多様なニーズを持つ一人ひとりの生徒に応じた進路指導の推進	①多様化する生徒個々の進路目標への対応を推進する。	・進路情報の的確な提供と進路意識の高揚・啓発を図る。 ・進路講演会や出前授業を実施する。 ・進路担当者や担任との個人面談強化を図る。 ・外部教育力の活用（職員研修）を図る。 ・オープンキャンパス等への積極的参加を奨励する。	B	夏休みや冬休みに二者面談、更には保護者を交えた三者面談を実施し、進路意識の啓発に努めることができた。成績検討会を実施することで、担任と教科担当者との生徒情報の共通理解を深めることができた。高大接続改革による高校現場のあり方を考える為に、外部講師を招き職員研修を行った。進学情報を得る為だけに塾に通う生徒がいた。丁寧な進路相談・情報提供の場の工夫が必要である。
		進路希望実現に向けた啓発活動、指導の体制の確立	②進路希望実現のための学力充実を図る。	・生徒全員から毎日行動の記録をとり、週明けに提出し、担任からのチェックを受ける。 ・教務部と協力し、朝の時間を活用して、基礎学力テストを計画的に実施する。 ・成績検討会を行うことで、情報の共有化を図る。	B	学力の定着を図るために、授業の充実を柱に、朝トク（SHR前の時間を活用した基礎学力テスト）を1、2年生に対して、計画的に実施できた。3年生に対しては、希望進路別の課外を開講したり、夏休み中には、1年生の内容を復習するための課題を出し、休み明けに確認テストを実施することで学力の定着を図った。基礎学力の定着には、今後も改善を加えたい。
		進路実現に繋がるキャリア教育の実践	③職業観の育成、職場体験の機会を設ける。	・職場見学会やインターンシップを実施する。 ・職業講話や出張講義の活用を進める。 ・LHRの効果的活用。総合的な学習の時間との連携強化を図る。 ・教科活動を通して職業観の育成を図る。	A	各分野における地道なキャリア教育の指導が、本人の希望に添った職業の選択に繋がった。今年度も就職内定率は100%に達し、進路保障の責任を果たすことができた。少子高齢化で人手不足が生じ求人は増加を続けているが、若年者の早期離職の高さが社会問題となっている。今後は、社会保障制度の理解を図るなど、内定後の指導にも努めていきたい。
	広報部	本校教育活動の素晴らしさの正確な情報の発信	①学校案内、ポスターによる広報(体育大会、文化祭、説明会など)を充実させる。	・学校案内では本校の現在の状況を、的確に伝える。 ・ポスターでは表現を工夫し、伝達事項を明確にする。	A	学校案内は学校全体の情報をわかりやすく網羅している。ポスターは、行事や入試の日程など情報を分かりやすく伝えることができた。
			②ホームページ等による情報発信。	・ホームページにより教育活動の速やかな情報発信を継続的に行う。 ・スマートホンでも閲覧できるように改善する。	B	「文徳ing」での学校行事や部活動紹介などは、ほぼ毎日更新できた。新システムを導入し画面が見やすくなった。しかし、各部の部活動ブログでは更新されない部もあり、十分とは言えない。
			③各種説明会で本校の魅力を十分に理解してもらう。	・各説明会の担当者が同じ内容を説明できるように説明原稿を作成する。	A	担当者が本校の教育状況を的確に説明するための準備工夫ができた。前年度説明会会場での反省を活かすことができた。
	事務部	教育環境の整備	①熊本地震被災校舎等の復旧	①熊本地震により被害を受けた校舎等の施設設備全ての年度内復旧を実行する。	A	今年度も熊本地震で被災した校舎・校地等の復旧工事が主な事業であった。生徒の安全を確保するなど万全を期して、文徳寮の外壁と雨漏り改修工事、文徳寮の雨漏り改修工事、芸術棟の外壁他改修工事、高圧受電設備改修工事、外構舗装工事、インフラ等の復旧工事を行った。また、スポーツ面の活性化を目指した施設・設備の事業は、硬式野球部の屋内練習場と球場周辺の外構工事を計画通りに執行した。施設・設備等の点検については、生徒が安心・安全に学校生活ができるよう、設備の点検箇所や時期等について衛生委員会でも再検討・調査を行い、教育環境の充実を図っていく事とした。
			②部活動の環境整備による活性化	②スポーツ面（部活動等）においても教育環境の充実を図り、生徒が活躍できる環境を積極的に整え活気に溢れる学園づくりに努める。今年度の主な計画は硬式野球屋内練習場を建設する。		
③生徒を取り巻く教育環境の整備			③施設・設備等の安全点検方法の考察や不要物品の整理に努める。			

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
各部及び理工科	カウンセリング部	学校生活に充実感を覚える健全な人間関係を構築させるための、生徒へのアプローチ		アンケート調査や担任の面談・養護教諭の語りかけによって悩みを持つ生徒を早期に把握する。教育相談などを通じて、生徒が学校生活を送るうえで生じる様々な問題を軽減解消し、充実した学校生活を送れるよう支援する。	教育相談では、面談を通して生徒へ適切な助言等を行う。(生徒・保護者・担任)の三者面も同時に実施。(基本は、生徒の悩みの原因がどこにあるかを、聴くことによって探る。)内容が全校的な場合や外部と関わりがある場合は、生徒指導部などの関係部と連携し問題の解決にあたる。 アンケート調査の実施	B	・アンケート調査の結果、ほとんどの生徒が学校生活に満足している状況である。 ・100%が満足しているわけではないので、課題を持った生徒への適切な対応が求められる。 ・アンケート調査の適格性と内容の充実のために、実施時期および回数の再検討が必要と思われる。
			①「不登校生徒」への対応	保健部と連携し、毎日の出席状況を確認する。欠席の続く生徒については、概要と要因等を探り、担任と連携を密にする。担任は、できるだけ家庭訪問を行い、生徒の状況把握、保護者の思いを受け止める。さらに、専門家(カウンセラー・SSW)等の助言を得ながら、支援の方法などの充実を図る。	B	「カウンセリング委員会」で専門的な支援方法について検討、SSW・外部カウンセラーに依頼し相談を重ねた結果、教室に入れるように改善された生徒もいる。しかし、中学校時からの状態が本校進学後も継続し、結局、進路変更をせざるをえない生徒も複数存在した。	
			②「いじめ」への対応	「こころのアンケート」などの諸調査で「いじめ」の早期発見に努め、重大化する前に対処する。「いじめ」が確認できた場合は、「いじめ防止委員会」で対応を協議し、学年・生徒指導部・保健部・カウンセリング部等で対応する。	B	「カウンセリング委員会」で専門的な支援方法について検討、特に自閉症スペクトラムと思われる生徒の特性を理解して、その特性に応じた支援方法を実施する必要があると思われる。	
		③「発達障害等を有する生徒」への対応	アスペルガー・高機能自閉症・LD等の生徒への専門的支援である「TEACCHプログラム」の概要を担任へ提供する。				
	事例検討会の実施	①カウンセリング委員会等(毎月1回実施)	構成委員(教頭・学年主任・カウンセリング部長・養護教諭・人権担当教諭・SSW)SSW・外部カウンセラーと協力する。	B	問題を持っている生徒については、本年度は3度の「ケース会議」を開催した。学校、家庭・外部関係者が連携を図ることが、生徒の進路保障に繋がった。今後の課題としては、年々増加傾向にある教育相談に対してよりの確に対応するために、外部の専門的機関との連携を高めて行くことである。入学した生徒全員が本校を卒業することが目標である。		
		②ケース会議(必要に応じて実施)	構成委員(教頭・学年主任・カウンセリング部長・養護教諭・SSW・児童相談所・関連する病院など)				
	工業教育を通して地域社会に貢献できる人材を育成する。	①専門教科で学んだ知識・技能を活かしてモノづくりや資格取得に対する意欲を高めると共に進路実現を保証する。	・実習や各授業において基礎から分かりやすい授業を行い、生徒の興味・関心を高め、学習内容を理解させる。 ・学年また専攻毎に資格取得に取り組むことで意識を高め達成感を体得し、更に上級の資格に挑戦する教育活動を進める。 ・国家資格取得については放課後などの時間を有効に活用し合格率を上げる。 ・県下の中学生を対象に「モノづくり教室」を実施。中学生を指導することで、更なる興味を高める。	B	各専攻毎に国家資格取得を目標に専門教科への興味関心を高めた。放課後の学習会へも積極的に参加するなど学習意欲が向上し、合格率も向上した。モノづくりに関しては、実習の実施時間不足のため、あと一歩踏み込んだものが出来なかったが、県下の中学生を対象とした「モノづくり教室」を実施したことにより、生徒の多様な興味関心への対応が可能となった。テーマによっては中学生への説明および指導全てを高校生が行うなど実践的な力を身に付けた。今後の課題としては、工作機械が老朽化しているため新しい工作機械の導入が急務である。		
		②卒業後の進路選択と自らの人生設計に必要な力を育成するための「キャリア教育」「職業教育」を推進する。	・学年ごとに進路別ガイダンスを実施し、一人一人の人生設計の一助とする。 ・企業講話などを実施し、職業観を育成する。 ・2年次にインターンシップを実施、職場体験させることで生徒の職業観を高める。	A	進学においては、国立大へ3名、高専編入に3名、公立の短大1名が国公立の学校へ進学、また崇城大学の特待生制度(ミライク50)に3名(内2名は専門コース)が合格を果たした。就職においては、内定した生徒の8割超が従業員数300名以上の大企業である。公務員希望者は全員が合格を果たした。		

4 学校関係評価

※生徒による評価（アンケートから）は、次のようなものであった。

- | | | | |
|-------------------------|---------|---|-------|
| (1) 学校が楽しいですか。 | | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | の肯定的な回答 | ◇ | 91.6% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | の否定的な回答 | ◇ | 8.4% |
| (2) 友達と一緒に活動するのが楽しいですか。 | | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | の肯定的な回答 | ◇ | 97.0% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | の否定的な回答 | ◇ | 3.0% |
| (3) 授業が分かりますか。 | | | |
| ・分かる・まあまあ分かる、 | の肯定的な回答 | ◇ | 78.8% |
| ・あまり分からない・分からない | の否定的な回答 | ◇ | 21.2% |

(1)の「学校が楽しいですか」という質問への回答から、ほとんどの生徒が本校での高校生活を楽しんでいる状況が窺える。「あまり楽しくない」8.4%という数値は昨年度より1.6%減少しているものの、その内「楽しくない」と明確に回答した生徒は2.7%おり、この生徒たちについて、その原因を探り、学校生活を有意義なものにすることが課題である。(2)の「友達と一緒に活動するのが楽しいですか。」という質問への回答からは、否定的な3%の生徒の周囲との疎遠な人間関係を推察し、人間関係構築に向けたアプローチが必要である。(3)の「授業が分かりますか」という質問に対する「分かる・まあまあ分かる」の学年別の数値を紹介すると1年75.6%・2年78.3%・3年82.4%と学年を追う毎に増加しており、学習目標の意識付けの重要性を表している。否定的な回答21.2%は昨年度の28%を6.8%下回る。分かり易い授業への取り組みが数値に表れたと考えられる。来年度は肯定的な回答の数値を3学年平均しても80%を超えるように努力を継続したい。

※学校関係者評価委員による評価

- (1) 入学志願者が多く、県内全域から信頼を得ていると感じる。今後も文武共に評価される教育活動を継続してもらいたい。
- (2) 開校50周年記念事業に係る教室棟、体育館、実習棟、緑化整備、駐輪場工事が完成し、更に素晴らしい教育環境が整った。今後も機能性・安全性等を考慮したより良い環境づくりを推進してほしい。
- (3) 基本的な生活習慣(規則、服装、挨拶、礼儀)については、規律正しい校風であると感じる。
- (4) 耐震設備でない建物(文徳寮)があるので、できるだけ早く整備するべきである。
- (5) 自転車通学生が多いので、交通事故防止の為のマナー指導を更に徹底してほしい。

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

入学してくるほとんどの生徒は、基本的な生活習慣が身につけている。特別指導を受ける生徒の減少は本校に限ったものではない。反面、集団生活において、特別に支援を必要とする生徒への的確な対応が生徒指導面で重要な位置を占めつつある。カウンセリング部、養護教諭、スクールカウンセラー・SSWなど、校内外の関連機関との連携の下、個々の生徒の状況を考慮した指導を実施した。また、遵法精神や協調心を持って、互いに協力・共生できる社会の大切さを集会などを通して呼びかけた。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

学習指導では、学習習慣や生活習慣を意識させるために、「学修と生活の記録」を全生徒に持たせ毎日の活動を記録させている。担任によるチェックを毎週(クラスによっては毎日)行い、生徒に注意・喚起を行っている。基礎学力を向上させるため、到達度テストを実施し、各教科各分野毎に生徒の全体像を把握し、得意な分野から徐々に苦手な分野に取り組みめるよう計画を立て、朝トク(SHR前の時間を使っての朝テスト)を毎日実施した。進路指導について、企画委員会を通して各学年会との連携を深めた。広報部の企画立案で、広報委員会職員により、広範囲におよぶ広報活動を実施し、多くの受験生を迎えて入学試験を実施することができた。

(3) 教育環境の整備

熊本地震によって傷んだ箇所の復旧工事はほぼ終了し、細部にわたる再点検後の工事が現在進行中である。生徒が安心安全に学校生活を送るための施設の整備については、緊急校内放送の範囲拡張工事、体育館敷地への入り口(旧正門坂)への減速ランプの設置、4階昇降口から体育館への屋根のある渡り通路の整備を行った。部活動等の活性化を目指しての施設設備計画も、地震の影響で当初の計画より遅れてはいるが、年度始めの計画通り順調に進捗している。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

学校行事・学年集会などを通して、各種講演会を実施し、生徒の心の成長を促した。アンケートにおいて「友達と一緒に活動するのが楽しい」という生徒が全校生徒の97%を締める状況は評価に値する。放課後の自習室利用者も多く、考査前には自習室が満席となる状況である。部活動では体育部17・文化部4・同好会8と活動の場は豊富である。体育部17の内13部活動で女子の入部が可能であり、全校生徒の37%(普通科46%)となった女子生徒の活躍の場も広がりを見せている。生徒会活動においては、委員会活動の活性化に取り組み、一部の委員会においては具体的な進展を見たが、時間的制約もあり、全体に広がるまでは至らなかった。

6. 次年度への課題・改善方策

- (1) 次期学習指導要領の本格実施を前に、小学校で2018年度から、中学校で2019年度から「特別の教科 道徳」が全面実施となる。高校では2022年度の学習指導要領改訂にともない、公民科に「公共」(仮称)という必修科目が新設される予定で、高校の道徳教育の要として位置づけられる。しかし、これはあくまで指標であり、規範意識・倫理観を育て、社会性・協調性へと導くのは、生徒個々の心に直接訴えかける地道な努力である。生徒全体への指導はもとより、校内外の関連機関との連携をより深めることで、個々の生徒の状況を見極めて、適切に対応して行きたい。
- (2) 基礎学力向上を図るために朝トク(SHR前の時間を使っての朝テスト)を実施しているが、日々の学習の習慣づけが大きな目的である。習慣づけには時間がかかると思うが、根気強く取り組んでいきたい。また、朝トクで使用するテスト問題の準備(印刷など)に時間がかかっているため、次年度からは、各自に問題集を持たせ、少しでも効率化を図りたい。
- (3) 熊本地震によって傷んだ箇所の復旧工事も進み、年度末には細部にわたる再点検も実施した。来年度始めには復旧工事も終了する。また、安心安全に学校生活ができる施設も年々充実させている。今後もより充実した学園への進化を目標に、さらなる教育環境の充実に力を注ぎたい。来年度からは、ネット環境の安全性を維持するためOSの更新も必要と考える。時間はかかるが着実に進めていきたい。
- (4) 生徒活動の活性化についてであるが、課外授業・自習室の活用・部活動と多くの生徒が放課後も自己の夢・目標に向かって活発に活動している。しかし、終業時間がコース毎に違う現状もあり、生徒会活動・委員会活動には時間的制約が生じている。次年度はこの放課後の在り方に具体的な改善を加える必要がある。